

第5節 交通機関

第1 肥薩おれんじ鉄道

1 被害・復旧の状況

7月22日0時44分頃，肥後高田駅～日奈久温泉駅間の線路左側法面が高さ30m付近から幅8mにわたり約24m³土砂崩壊したが，同日18時40分に復旧した。

7月22日19時20分頃，野田郷駅～折口駅間の線路右側法面が高さ10m付近から幅25mにわたり，約300m³土砂崩壊し，土砂が線路上を覆ったが，7月24日に復旧した。

7月23日9時30分頃，米ノ津駅～出水駅間の河川（江良川）が増水し，高柳川橋梁の護岸土留壁が崩壊したため，線路の盛土道床が流失したが，7月25日昼ごろに復旧した。

7月23日16時50分頃，草道駅～上川内駅間の河川が増水し，橋梁護岸土留壁が崩壊し，橋台裏盛土が流出したが，7月24日に復旧した。

2 列車の運休状況

7月22日から24日にかけては全線運休した。

出水駅～川内駅間が7月25日の始発から，出水駅～八代駅間が7月25日の15時18分から運転を再開した。

3 被害額

土砂撤去，道床補充，土留壁復旧などの復旧費用に約3,000万円を要した。



盛土の流出状況



法面崩壊による途絶状況

第2 南国交通株式会社

1 南国交通株式会社路線バスの運行状況

今回の大雨により，川内川流域の大口市，菱刈町，湧水町，さつま町においては，道路が各地で冠水し，また，土砂災害の危険度が非常に高いとの状況であった。

(7月21日)

夕刻に吉松の中野地区において，一部冠水箇所があり吉松循環バスの一部迂回にて運行した。

(7月22日)

前日の状況を踏まえ，朝6時より吉松・栗野・菱刈地区の路線調査をしたが，まだ通常運行での指示をした。

9時ごろラジオ等で羽月川，水俣川の水位が危険水位に達したとの報道で，各路線の調査を実施し，菱刈地区の湯之尾・南重留地区の一部冠水と山手からの湧き水等の情報で迂回運行を指示し，11時までに大口営業所エリアの自治体へ連絡をし，全ての運行を中止した。

同時にさつま町から宮之城の川内川の水位が危険水位を超える情報があり，直ちに運行を中止し，鶴田へ避難を指示したが，急激な川内川氾濫につき，虎居地区の宮之城出張所の建物周辺に川内川からの流水が入りつつある状況にあり，その後虎居地区に避難放送が発令され，バスの避難ができず，6台のバス車両が天

井を越える水位で水没した。

大口営業所管内の運休は、41本中、21本で、運休率51%だった。

出水市内では、米之津川の決壊により、広瀬地区～米ノ津地区の道路が冠水し午前11時頃から通行不能となった為、運行を中止しそれぞれ駐在地へ引き返した。また野田・高尾野は、午前8時頃、コミュニティバス1台が江内地区の道路冠水により、立ち往生となり、その後、運行を中止した。

長島町は、午前8時半頃、小浜地区の道路冠水により西回り路線が通行不能となり、路線バス1台と自治体バス1台の運行を中止した。

空港連絡バスは、6台の内1台がさつま町虎居地区の水没により、宮之城バスセンターで立ち往生となり、11時以降は、運行を中止した。

出水地区の22日の運休は、14系統の上下合わせて49本のダイヤが運休となり、運休率は71%であった。

薩摩川内市区においては、国道3号の一部湯田口地域で道路決壊につき折り返し運行をし、川内からはさつま病院前で折り返し、阿久根市からは西方駅前で折り返し運行した。コミュニティバスの最終より前3便が運休となった。

高速バス関係では、九州自動車道の空港ICより八代間の通行止めで福岡線8便の全便、大阪線2便の全便と空港～人吉線4便の全便が運休となった。

(7月23日)

大口市、湧水、菱刈地区の各所で、道路決壊及び復旧作業等で、終日運休した。

さつま町地区では、虎居地区を中心に復旧作業での通行止めと各道路での一般車両との渋滞が発生し、復旧作業を優先とし、町の規制で26日まで運行ができなくなり、運休率100%だった。

出水地区は、22日夜からの小康状態であったが、23日午前7時頃からまた豪雨となり、再び米之津川が氾濫し、各地で道路冠水や土砂崩れが発生した。この為、全便が発発より運行を見合わせた。午後から雨が上がり水が引いてきた為、路線調査を実施し午後1時から運行を開始したが、コミュニティバス、空港線においては、各所での道路陥没や土砂崩れにより終日運休となった。

出水地区の23日の運休は、14系統の上下合わせて49本のダイヤが運休となり、運休率は81%であった。

薩摩川内市区においては、国道3号の一部湯田口地域で道路決壊につき折り返し運行をする。コミュニティバスは、中郷地区及び済生会病院付近等の道路冠水で、終日全便の11便運休となった。

高速バス関係では、九州自動車道の空港ICより八代間の通行止めで福岡線6便の全便、大阪線2便の全便と空港～人吉線4便の全便が運休となった。

(7月24日)

大口営業所管内におけるほとんどの路線で運行を開始したが、菱刈の重留～下名は道路陥没により、迂回運行と吉松地区コミュニティバスのみ、終日運休とな

った。

さつま町地区は、復旧作業で町の道路規制等があり、終日運休となった。

大口地区の運休率は、さつま町地区のみ上下20便の全体で20%だった。

出水地区においては、路線バスとコミュニティバスは、平常運行となり、空港線においては、さつま町の道路規制により通行できなく、往復12便全便運休となった。

(7月25日)

阿久根・空港線午前中上下3便は運休となったが、午後からは、迂回ルートが確保できた為、薩摩平川～湯田～国道267号～薩摩町支所へ迂回し運行した。

大口管内は、前日と同様の運行体系だった。

(7月26日)

昨日までと同様、さつま町地区の道路規制があり、同地区の運行は、終日運休となった。

出水地区の阿久根・空港線は、昨日の迂回ルートで始発より運行した。

(7月27日)

全ての地区で、ほとんどが通常運行となったが、大口・水俣線の岩井口～越木場、大口・栗野線重留～下名、菱刈町本城の荒田下～農村公園前等については、一部迂回運行した。